

## 第6回熊本市震災復興検討委員会

日時:平成28年11月2日(水) 18:30～

場所:熊本市役所 本庁舎4階 モニター室

### ● 次第

- 1 開 会
- 2 市 長 挨 拶
- 3 委 員 長 挨 拶
- 4 議 事  
(1)熊本市震災復興計画について
- 5 閉 会

市長挨拶、中山委員長の挨拶の後、事務局から熊本市震災復興計画について説明を行い、意見交換を行った。

### ● 議事概要

#### (1)中山委員長挨拶

委員の皆様、5回の審議ご苦労様でした。今日はおそらく最後になるかと思えますけれども、よろしく願い申し上げたいと思います。また、我々が審議をする中で、色々な形でお支え頂いた、熊本市長始め、熊本市の職員の方々にも感謝を申し上げたいと思っています。市の方で、ここにおられる委員の先生方をお選び頂きました。それぞれの専門部署から大変素晴らしいご意見を賜りまして、復興計画ができ、それが議会にも通ったということです。私は常に今回の復興計画を作成する中で、いつもこれでいいのだろうか、自問自答しながらやって参りました。今でも出来上がりましたこの復興計画について、本当にこれで良かったのだろうかという思いは持っています。ここにおられる委員の皆様もそういうお気持ちを持っておられるのではないかと思います。とは言っても、やはり我々は単に意見を述べ、方向性を示すという形で終わるわけですが、大切なのはこの復興計画が一つの方向性であり、これをしっかり市の職員の方々が理解をして、我々が今ひとつできなかったという忸怩たる思いを、実際にこの計画を進める中において、より被災された方々の立場に立って、しっかりと現場で実践して頂ければ、我々の不安が払拭できるのではないかと思います。前回も申し上げたのですが、震災があって、一番苦労されたのは市の職員の方だと認識しています。しかし、市の職員の方々が苦労されただけのことは、今は、現場の被災をされた方々が本当にありがたいと思っておられるのではないのでしょうか。そして、これからが本番です。この震災があった後に、県下で、いわゆる関連死という方が50名以上亡くなられているということです。まだまだこの震災は尾を引いていると感じている次第です。一日も早くそういった方達が安心して住める、安心して生活できる、そういう環境を作って頂きたいなと思っています。私共は今回で終わりになる訳ですが、一市民として一生懸命市の職員の皆様を支えていきたいと思えます

し、それを通じて被災された方々をお支えできればと思っている次第です。今回の復興計画の大きな柱は、大西市長が言われています上質な都市を作るということです。是非上質な熊本市にさせていただいて、日本中の皆さんが熊本市に住みたいなど、熊本市はなんて素晴らしい街なのだろうと思うような市になりますように祈念を致しまして、冒頭のご挨拶に代えさせていただきます。

## (2) 震災復興計画をふまえて各委員からの発言

(相藤委員)

この計画ができたことをとても嬉しく思います。また、冒頭、委員長の方からもありましたように、これから先、この計画がどのように実施されて、そしてその後、どのように復興していくのか、とても楽しみです。それが私達のやってきたこの計画が、生きるということだと思えます。私も微力ながら福祉の方で参加させて頂きました。障がい者の方とか、高齢者の方とか、災害弱者と言われる方達が、この震災によって多大な被害を受けられたし、様々な困難を抱えて今も生活されている方もたくさんおられます。そういう中で、この計画にどれだけ盛り込んでいったのか、私自身もどれだけ寄与できたかを反省しているところです。けれども、まずはこの震災という未曾有の経験をした私達が、この後どうやってこの経験を後世に伝えていくのか、そしてそれをまた地域の中でどう取り組みながらやっていくのか、これからの課題だと思えます。また、自助と共助というのが、あちこちで聞かれましたし、この中でも言ってきたところですが、自助、共助、公助が、それぞれ縦割りではなくて、市民目線でこれから復旧していく、そして自助、共助、公助も一緒になって、復興に向けてやっていく必要があるのかなと思っています。今度、11月6日に、学園大で熊本地震シンポジウムというのも開きます。地域に根付いた避難所の取り組みと被災者支援ということで、指定避難所ではありませんでしたが、重要補完の避難所として開設し、教職員一丸となって運営に当たりました。本当に熊本のあちこちで県民、市民全てがそれぞれ持てる力を出し合って、協力して凌いできた地震後の7ヶ月ではなかったかなと思います。そういう中で、未来に伝えたい避難所の形で、学園大の方でシンポジウムをさせて頂きます。どうぞお時間のある方はお出で頂きたいと思えます。そして今、学園大の資料館の方でも特別資料展をしております。1日から13日まで、普通の日には夜の20時迄開けておりますので、市民の方も是非これを機に来て頂いて、記憶を後世に残す、そして改めて震災後、震災を受けた私達の今後の生活をどうやっていくのか、そういうことをもう一度皆思い起こして頂ければと思えます。この検討委員会に参加させて頂いたことを、私自身も感謝いたします。これからもどうぞよろしく願いいたします。

(後藤委員)

医療関係者として今回の震災復興検討委員会に参加させて頂いて、あらためて個人的な感想から述べさせて頂きますと、まず感じましたことは、今回の震災の時期とほぼ重なって、私達医療分野でも、私もそうなんです、いわゆる団塊の世代のほとんどが定年の時期を迎えていまして、「幸か不幸か」と言いますか、世代交代が震災に見舞われたことによって一気に

進んでいるような気がします。その交代劇が、若い人達があの限られた状況下のリソースと言いますか、それぞれが色々な被害損害を受けながらも、それらのリソースをうまく活用して、レジリエンスと言うのでしょうか、レジリエンス・エンジニアリングをうまく機能させて、医療で細かいこと、やり残したことは色々起こりましたが、大きな齟齬なくやってもらったことは若い世代にとっては非常にいい経験になったはずですし、ある意味多くの団塊の世代が定年の時期を迎えていたからこそ生じたことでもあり、その点では、語弊はありますが良かったのかなと感じておりました。この若い世代の方達が、この経験を次の世代にまた継承していく、そういう若い世代が経験したことは、ある意味、若い世代は今後も未来への時間を持っていますので、震災のおかげといったら非常に不謹慎ですけど、震災と世代交代が重なるという「幸運」、そういったことがありました。もちろん、それがうまくいったのは、前の世代が培ったものがあったことも事実ではあると思いますが…。私は医療の分野でそういうことを感じたわけですけど、このようなことは他の分野でも多々あったのではないのでしょうか。市の職員の方、あるいは行政関係の方々でもあったのではないのでしょうか。ある意味、今後振り返るとき、震災前・震災後世代ということもあり得るのではないかと思います。検討委員会の場ではあまり感じてはいませんでしたが、このような視点で、計画を読みかえしてみますと、確かに被災者に寄り添うというこの復旧・復興が重要な事は当たり前ですけど、それ以上に、新たな熊本への想いが込められていて、いいのが出来たのではないかと思います。今後の実行段階においても、こういう意味付け、つまり若い世代には、いわゆるレジリエンス・エンジニアリングをきちんと発揮出来たことを、自信を持って心がけて頂いて、この計画が進められていくことを期待したいと思います。最後になりますけど、私はこの場で最後まで未熟かつ不自然な論争を生むような意味あいのことをやってしまって、場違い感は拭えなかったのですが、委員長先生を始め、皆さんにはご迷惑をかけたことと思います。だとしますと、この会には、先ほど申し上げたような若い世代が是非入ってくれたら良かったのにも思ったりもしました。しかし、若い世代は震災の復旧復興云々で忙しかったこともありましたので、私が出てきたわけですけど…。今一度申し上げておきたいことは、震災世代と言いますか若い世代の方々がやってのけたレジリエンス・エンジニアリングを是非評価して頂きたいなと思うことです。今回の震災対応では、様々な分野である意味発揮できたのではないかなと思えますし、そのような後輩達、若い世代を頼もしく思ったところです。職員の方々も、おそらく上司の方達はそう思われているのではないかと思います。そういう視点でも復興計画が着実に、かつ更に一段上を目指して進んでいくことを期待したいと思います。

(坂本委員)

今回このような会議に参加させて頂いて、私も三つ考えさせてもらった部分がありました。一つは、避難所運営の難しさです。どうしても我々がPTA活動していく中で、学校での福祉とか、お手伝いはPTAの方に色々かかってきて、学校と地域も連携するわけですが、どれが正解でどれが間違いだということは全然答えではなくて、各地区毎でそういうことを事前に計画の中に盛り込むのではなくて、まず、地区毎で避難所運営など準備していくことが大事なので

はないかということを感じさせられました。なおかつ、最初の混乱の時に、何が無い、これが無いと各々が勝手に言うのではなく、市長のお言葉でもありましたように、まず自助努力というか、自分の中で常に準備していくことも大切であり、我々が代表して地区の方々や保護者の方に発信していくことも大事だと痛感させられました。二つ目は、子ども達へのフォローとして、まだまだ学校などを色々修復していただいて本当にありがたいと思いますけれども、子ども達も一人ひとりでは心の中に若干傷が残っているのだらうと思いますが、大勢でいるときは大きな声を出して、少しでも怖かった頃を忘れるような感じで、運動場で一生懸命走り回っています。また、それと同時に、今文化祭とかバザーとか、そういう中で、我々も全国の PTA からいただいた義援金を基に、それぞれ防災フェア等、再度する段階で勉強させていただいている状況になります。ある程度落ち着いてきましたので、今後何かあったときには、対応では子ども達が主になって、慌てることなく対応できる現状を作っていきたいなと思いました。今後の対応ですけれども、我々PTA もそれぞれ入れ替わりますので、なかなかこのような経験はできることではありませんので、出来れば若い世代、次の世代の人達に何か残せるような文書録とか、そういうものを皆で検討して、経験を今後の世代に繋げていきたいと思いました。

(竹内委員)

日本銀行は、国土交通省などの事業官庁とは異なり、マクロ経済政策を担当しております。最後の会合に当たり、やや評論的な話にはなるとは思いますが、三つほどお話したいと思います。第一は、熊本地震後の対応は、全体としてみれば、少なくとも及第点はあったように私は思います。行政もそうですし、民間の企業もそうですし、さらには市民の皆さんの秩序だった行動などはいずれも、模範的とまでは言えないかもしれませんが、十分に評価できるもので、いずれ何処かで被災地となる都市の一つのモデルになると思います。今回作り上げていただいた資料も、しっかりと練られたものだと思っております。それが一つです。二つ目は、私の主たる仕事の一つがデータを使って講演活動をし、県民の皆さん、市民の皆さんに健全な危機感を持って頂くということです。そういう観点から申せば、復興需要を背景に数年間は景気が拡大するにしても、人口が減少していくということは、根底として変わらない。従って、普通にやれば、復興特需一巡後には厳しい経済情勢が待ち構えていますので、人口減少下の逆風の克服に向けて、改めて総力戦で立ち向かっていく必要があります。そういう意味において、今回の震災について、ピンチをチャンスに変えていく、語弊なく申し上げれば、良い機会ですし、最後のチャンスかもしれないという思いです。人手不足が現在、経済復興の最大の制約条件になっているのは見ての通りですので、人をかき集めるという努力もそうなのですが、付加価値の高いサービス業を育成していくことが大事だと思っています。その際、農業・観光に引き続き注目しながらも、IT 産業の育成を含め私も何かしら貢献したいなと思っています。最後ですが、二つのリーダーシップを行政の皆さんにお願いしたいと思っています。一つはこういう危機の時ですから、当然市長以下、市民の皆さんに対する強いリーダーシップが非常に大切な時期だと思っています。二つ目は、今回の地震は熊本都市圏に非常に大きな被害をもたらしていますので、その中核都市である熊本市が周辺の小規模の自治体を引っ張っていく、リーダーシ

ップも発揮して欲しいと思っています。私は今の職場に30年近く勤めているのですけれども、確か人事課に在籍していた際の上司の言葉が二つ記憶に残っています。それは、“丁寧に”という言葉と、“大胆に”という言葉です。今後の行政に当たっても、“大胆に”物事を進めると同時に、“丁寧に”進めて頂くということが重要なのではないかなと思いました。色々と、ありがとうございました。

(松下委員)

先ほど中山委員長が言われたように、これを読みまして、これでいいのかなというところは勿論あります。これを本当に実行するのかどうかを、やはりこれから見続けて行きたいし、それぞれの達成度合いは、期日を切っても検証していただければと思いますし、私達も検証して行かねばならないと思っています。五輪計画が再検討されている東京都みたいに、数年後にあの復興計画は何だと振り返って言われぬように、進行していきたいと思っています。今度も無理を言ったみたいで、行政は地震のメカニズムの研究をするのは少し無理な部分もありますけれども、その解明に近付けるために、研究者の方と連携して頂くことはやって頂きたい。また、その関連として立田山断層は大丈夫かと未だに言われています。ちょうど熊本城の下を通っていると言われてはいますが、その辺りのことも含めて、またあるかもしれないという危機感を持ってやっていかなければいけないのかなと思っています。それと、今度改めて思ったのは、時間が経つに連れて、市民の方の要求が変化していくということです。直後は水が出ない、あるいはガスが出ないと、インフラ的な部分がありましたが、その後は罹災証明が遅れているのではないのか、二次調査も遅れているのではないのかとか、色々な意見が出ました。それは一つではなくて、各々の人によって違う、家庭によって違う、その辺りを行政は大変でしょうけれど、これからもすくい上げていっていただければと思いました。最後に、前回も言ったのですが、私はこれからも熊本に住み続けるのでしょうけれども、経済的な部分、MICE を作って大丈夫か、あるいは、市電延伸も大丈夫か、財源はどうなんだ、というような、神戸の場合は確か最初は国の助成もあってかなり経済的に持ち堪えたのですけれども、3年後4年後辺りから小さい商店などがバタバタと倒産して、第二の阪神大震災と言われたやに聞いております。その辺りの教訓も生かしながら、これからやっていかなければと思っています。行政担当の方々へのエールと期待を込めて、私達市民も含めて、気合を入れて進んでいかなければならないでしょう。ありがとうございました。

(谷崎委員)

委員の田川会頭が出席できませんで申し訳ございません。お許しを頂いて、代わりまして少し話をさせていただきます。まず震災後の復旧復興に向けて、ご多忙の中に、関係者の調整を図られて、この復興計画をまとめられた市役所の皆様方に、改めて敬意を表する次第です。本当にありがとうございます。お疲れ様でした。私も田川会頭も2回出席させて頂き、私も3回出席させて頂きましたが、一貫して申し上げてきましたのは、6月27日に経済5団体から、知事・市長に提出させて頂きました緊急提言に沿ったことでした。結果として、その内容を本当に

色々と盛り込んで頂いたことに対しまして、改めて感謝を申し上げます。今回まとまった計画そのものについて改めて見ますと、復興重点プロジェクトあるいは目標別の施策ということでまとめられております。それで1点目の要望ですが、やられること、やらなければならない事は盛りだくさんここに書いてあります。ただ財源の問題も当然ありますので、この中でも Priority を付けながらやって頂くことが大切なのではないかなと。そのうえで財源については、国に繰り返し要望して頂くことをお願いいたします。経済界としても一緒になって取り組みを進めて参りたいと考えています。それから2点目ですが、KPI など、成果の見える化の工夫もお願いできたらと思っています。市民の力を借りての復興がそのことによってより一層進むのではないかと考えています。それから3点目ですが、今回、市役所の皆さま方は、被災した方々と毎日のように向き合う中で、より一層市民目線という視点が培われたのではないかと思います。そういう意味では、高齢者あるいは障がい者、外国人と言った災害弱者と言われる方々の対応の検証を、今一度行って頂ければと思っています。最後ですが、これまで、我々は特別相談窓口の開設ですとか、商店街のにぎわいづくりとか、あるいは海外展開事業ということでやって参りましたが、東北の方々の話によりますと、これから3、4年は事業者非常に厳しい状況が続くということを聞いています。このため本格復興までは、今後共、全力を上げて、私ども商工会議所として事業者のお支えをしていきたいと考えておりますので、引き続きの連携を是非ともお願い申し上げます。

(菅野委員)

おそらくこの委員会の中で、私だけが熊本と名が付かない組織かつ、熊本の外からやって来て、また、一番の若輩者として、このような場で色々発言させて頂くような機会を頂きまして、本当に感謝申し上げます。日本はこれまで様々な災害が連綿と続いてきた国ですので、おそらく私の役回りは、その知恵をどう生かしていくのかということだったのではないかなと感じています。それがどこまでうまくいったかということもありますが、東北、特に仙台市の方々とかにもお世話になりながら復興の実務を進めていかれて、そういった知恵が入った形の計画になってきているのではないかと改めて実感している所です。3点、今日は申し上げたいなと思っていました。一つがまさに熊本市さんの今後のことに関して、もう一つが圏域といいますか、熊本の都市圏のことに関して、もう一つが全国であったり次の社会であったりという大きなことに関して、3つお願いできればと思っています。一つが、災害対応というのは、全庁で何かことに当たらなければならない一つの大きなプロジェクトのようになります。通常の業務の中だと全庁で大きな事に当たるとするのは総合計画をまとめるぐらいしかふつうは無いところに、このようなものがでてくる。当然普段だと連携しないような組織、連携しないような人達、そういった人達と仕事を成していかなければならないし、そういった新しい機会が非常にたくさんあったのではないかと考えています。是非そういう新しい発見や新しい活動、新しい相手を大切にして頂きながら、次のまちづくりに活かして頂きたいと思います。産業の方もそうでしょうし、行財政、地域、色んな所に、そこから多分色々なイノベーションが起きていくという、本当に大事な源泉になってくると思います。そういう意味で機会をチャンスに変えて頂いて、活かして頂きたいな

と思っていました。二つ目に圏域のことですが、益城町の方にも関わらせて頂きながら、同じく復興計画を検討させて頂く立場にもいます。正直言いまして今日、益城町の復興検討のポリシーのある資料が配布されたのですけれども、どこかでよく見た構成で、熊本市さんのことをよく見ているなと思いました。よく似た骨子立てなどに表れるくらい、よく見られていて、熊本市さんが圏域のリーダーシップを発揮される立場におられるのだと実感いたしました。是非色んな知識、今どう考えているのか、そういったことも情報交換しながら圏域の復興を進めて頂けるとありがたいなと思っています。最後に、社会にといいですか、国にといいですか、大きな話ですが、今は私のオフィスは神戸にあります、東日本大震災時に仙台市にしばらく在住しておりました。災害が起こると、そういう災害を経験した所って、他所で起こると気が気ではなくなるんですね。もうあの時の苦労が頭の中にももの凄くよぎって、これどうするんだ、またこんなことになるのか、と思って、実は応援に来られていました。今回も仙台市さん、神戸市さん、新潟市さんなんかそういう経験を元に、こうなんじゃないか、ああなんじゃないかと、気が気じゃなく応援していたというのが実際です。熊本県では中々できない役回りとして、やはり被災された市民の方に直に向き合われるというのが市です。しかも政令市ということで、かなり大きな力を持ちながら向き合われるわけです。日本はなかなか災害法制が不十分な部分もたくさんあります。なぜこんなことしなければならぬのだろうかというのがたくさんあります。戦後すぐに決まっていることをそのまま続けているものとかですね、これ今の時代に合わないのではないかということ、実は抱え込みながら、非常にご苦勞されながら今に適用されることがあったかと思えます。そういう経験を、本当は、法律はこうあった方がいいんじゃないの、社会の仕組みはこうあった方がいいんじゃないのかと、国の全体の仕組み作りに活かして頂くことに注力されるといいかなと思います。多分この復興計画なんかは、次の大きな災害が起こった時は、間違いなく見られる資料になってきます。どう対応されたのかというのは、本当に色んな取り合わせがあると思います。熊本市さんで纏められている復興資料を見られて次の災害が起きた市町村が頑張られることとなります。今から南海トラフ巨大地震も起きます、首都直下もあると言われてます。そういった時に具体的に知識であるとか仕組みというのを是非全国的なものとして残して頂きたいなと思っています。ありがとうございました。

(小林委員)

お疲れ様でした。思えば7ヶ月経ったのだなとしみじみと感じ入ります。今日ちょうど私の大学では、学園祭の3日の中日で、学生達の顔を見ていますと、この学生達が7ヶ月前にどんな生活をしてたかを思うと辛くなる部分もありますけれども、よくぞここまで頑張ってきてくれたというのが、近くで教育して見てきた正直な気持ちです。もちろん被害にあって大変な思いをした学生もいますし、命を落とした学生もいる中で、なんとか熊本のために自分達にできる最大限のことをやろうと必死に活動してきた学生達も、色んな避難所がクローズしたり、ボランティアセンターがクローズということで、徐々に元の生活に戻り始めてきています。ただ彼らが異口同音に言うことは、今私達が経験したこの震災を無駄にしないために、今まで自分達が住んできた熊本以上の素敵な熊本にしたいというのを、若者達が本当に銜いもなく本音でそれを

語る姿を見ていると、この子達がいるなら次世代は大丈夫だなという気がしみじみとしています。市長の目指しておられる上質な都市を目指すに当っては、やはり住んでいる人が誇れる場所であることが一番で、住んでいる人達の代表格というか、これからを支える若手がこういう気持ちを持ってくれていることは、この市の将来は安泰かなという気持ちもしております。私は観光という分野で、そろそろ震災からの復興というところに、産業で支える時代、フェーズに入ってきているなど実感しています。10月31日の日付で、訪日観光客は2千万人を突破いたしました。幸か不幸か、熊本という文字がこれだけ世界に向けて市民権を得たというか、名前が売れたのは、震災の影響を受けたおかげでもあるかなと思います。また同時に、熊本が震災を受けたことがきっかけで、九州の観光がガタガタになった事実を見ていると、やはり九州の観光を支えるのは熊本だろうと。交通の要所でもあるし、九州のど真ん中において、その周辺と連携をとることによって、初めて九州が海外に向けて商品価値を持つことがここで本当に実証されたことは、熊本の観光事業者を含め、私達は熊本城を始めとした、観光資源を持っていることにもっと誇りを持つべきだと思いますし、復興のシンボルとして熊本城が少しずつ復興していくプロセスをしっかりと海外に向けてどうやってアピールしていくか、それが実際にお金となって振り返って来る、観光商品としてきちんと整備をしていくことが、これから重要だなと思っています。これから2019年の、世界を迎えるワールドカップも、それからハンドボールの大会もありますし、2020年のオリンピックもあります。これからますます熊本が世界に向けて、世界に誇れる観光都市としてアピールする最高のいいチャンスに恵まれているわけです。この復興という言葉を借りて、観光をどんどんこれから支えることによって、もちろん農業・観光あつての熊本ですから、そこがあつて初めて経済が動き、市民の皆様方の生活もこれから速度を加速的に支えることができるのかなということで、これからが本番だという気がしているところ です。

(井上委員)

大変お世話になり、ありがとうございました。私はJAといたしまして、食料を供給する、それから消費者の皆様方に喜んでもらえると言った立場で、少しお話をさせて頂きます。震災後、農業にとって大切な土地、または農業倉庫、農業機械に被害があつた中で、農家の皆様方は、将来をどう再開していくのかで本当に悩んでおられました。その中で、熊本市役所の皆様方にお礼を言いたいのですが、いち早く経営体育成支援事業辺りに取り組んで頂きながら、農業倉庫の復旧、それから今は土地の復旧辺りにも取り組んで頂いています。農家の方々は、光が見えたと言いますか、将来像が見えてきたということで、大変努力をされています。それが市役所の皆様方のご指導とご協力のおかげということで、ここでお礼を述べさせて頂きたいと思ひます。大変ありがとうございます。また現在、このような復興計画をそれぞれ作って頂きながら、できることから一步一步、着実に復興に向けた取り組みを行っているところです。また、この食料を供給する立場の中でも、全国的なところでフェア開催等も現在行っていますし、やはり熊本の元気を全国に発信したいということで、これを元に、いち早く強い農業を作りたいと思っていますので、どうか今後ともよろしくお願ひいたします。

(鈴木副委員長)

6ヶ月余りが経って、最近、4月、5月ぐらいの新聞記事をずっと読み返しています。読みながら、改めてこの震災が私達に問いかけたものは、一体何なのだろうかと考えながら読んでおります。一つ頭をよぎるのは、実は、それまでの熊本の市民社会のあり方・あり様を問いかけている、つまり、非日常じゃなくて、平時の時の社会の有様、あれでよかったのというのを、もう一度少し点検をしてみたら、と問いかけられているように私には思います。勿論、そこには今後引き継ぐべき、誇るべき、色んな長所をこの震災を契機に発揮されました。しかし同時に、日頃我々が見過ぎてきたような弱点、これもあからさまになったのではないのかなと思います。それから、単に地震への備えが不十分だったというのも当然ありますが、それに限らない、それを越えて、例えば価値判断とか価値基準の置き所、今まで通りでいいのかなというのを考えてみる、あるいは、人を大切にするというのは具体的にどういうことまで気を配ることなのかを、やはり震災の経験を通じて、「あ、これは思い至らなかったな」と気付かせてくれたと感じました。例えば市民病院ですけれども、市民病院は耐震性が不足している、不安があるのは、もう既に分かっていたことだろうと思います。ところが私達は、財政的な視点、それから経営的な視点という形を重視して、建て替えを凍結するという判断をしました。これはいいとか悪いとか、責任がどこにあるとかを問い詰めたのではなくて、まさにそういう物差しでいいのだろうかということ、再度やはり考え直してみる、そういう契機を与えて頂いたかなと思います。避難所にしても、小学校の先生に聞くと、体育館に避難した、ところが多目的トイレが無い、車椅子を使っておられる方はそこに入れなくて、他所へ移らざるを得なかった、そういうジレンマもかなり聞きましたが、それは単にこの先、福祉避難所を充実すればいい、これは大事なことからやらないといけないのだけれども、そのことだけでなく、ふと考えてみるとその方にとって平時、何でもないときにも、この体育館はとっても使い勝手の悪い施設だったのだなと気付かされる等々、色んな気づきをもたらしてくれたようにも思います。問われてくるのは、震災という経験を糧として、この先どれだけ豊かで多様な方が住んでいることを前提で、誰にとっても暮らしやすいまち、これまさに“上質な生活都市熊本”になるとは思いますけども、これをいかに創造していくかというのがこれから問われるのではないのかなと思います。もちろん目の前に具体的な課題というのは山積み、まさに文字通り山積しているわけですが、ただ時折、こういう大きな方向性、問題設定を反芻しながら、今後災害復旧・復興に取り組んでいけたらなと考えております。色々議論をお聞かせいただき、とても参考になりましたし、勉強になりました。どうもありがとうございました。

(中山委員長)

各委員の皆さま方から素晴らしいお話を承りまして、ありがとうございます。どの委員の皆さま方のご意見も、大変感銘を受けた次第です。最後に、鈴木副委員長にしっかりとまとめて頂きましたが、まさに今回の震災、我々に色んなことを気付かせようとしてくれているのだと思います。是非、震災から得られることを、一生懸命、我々はこれから検証しながら気付いていき、そして誰でもが住み易い、そういう熊本市になればと思う次第です。本当にご意見賜りましてあ

りがとうございました。それでは、これで皆さま方のご意見をお聞きいたしましたので、この会議を閉じさせて頂きたいと思いますが、どうしてももう一度何か言いたい方はおられますか。いないようでしたら、これで終わらせて頂きたいと思います。最後に、本当に今まで進行役を承りながら、拙い進行で本当にご迷惑をおかけしたことをお詫び致しまして、終わらせて頂きたいと思います。どうもありがとうございました。